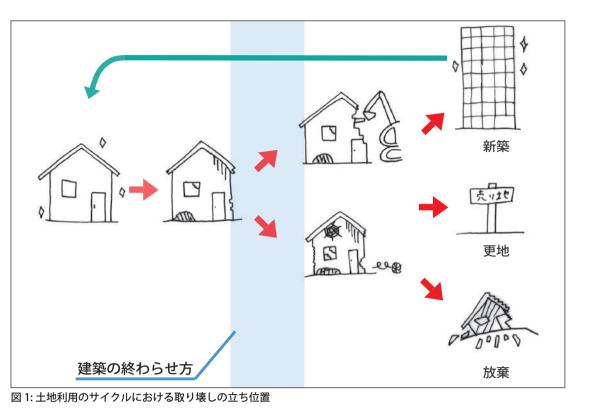
<建築の終わらせ方>を設計する

はじめに

建物の取り壊しという行為は、土地利用のサイクルの一環であり、通常施主や使用者の意思とは別に作業的に行われる(図1)。しかし近年、取り壊しの決まった建物において、解体までの間にイベントや展覧会を開催するなど、いわばく建築の終わらせ方>を指向した事例がみられるようになってきた(図2)。こうした状況を踏まえ、本計画では、取り壊しが決まった建物の一時的な改装と、建物やそれが存在するまちへの思いを反映させたイベントの開催を通して、建築や地域の意味を住民同士で共有することが可能となる、<建築の終わらせ方>を考慮した設計を提案する。





■建築の終わらせ方の設計意義

イベント名	イベントの目的期待した事	イベントを行ってよかった事はなにか /イベントの成果
とたんギャラリー	・阿佐ヶ谷住宅の事を多くの人にしってもらいたい。・終わりをどう迎えるかを考えていきたい。・・・etc	・建物が無くなった今も、身体感覚で建物があった場所が明確に分かる、終わりを意識して住んでいたからかもしれない。・・・etc
オクリエ	・住人にとって居場所であった建物を弔いたい。・解体して家が無くなる(場所が無くなる)という事を考えたい、伝えたい。・・・etc	 次にどんな建物ができるか気になるようになった 地域の人にとっても、どんな建物がいいのか考え機会になったのではないかと考えている。 オクリエの現場が地域の人や主催者にとって共通場所になった。・・・etc

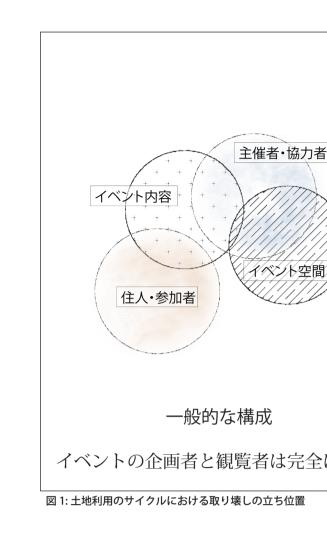
図 4: 愛着型事例へのインタビュー結果一部抜粋

図 3: 事例活動目的別の分類

事例調査結果 本計画では特に変有型とよんでいるタイプの活動意義に注目している。 広告型 企業が所有している建物を取り廃しに合わせてイベントに使う。広告性を強く押し出している。 のより現します。 などよりに使う。広告性を強く押し出している。 のより現し下定の建物が持つ建築的の財物に受着ないしは思い入れをもった人物がイベントを起こしている。イベント期間が長いものが多い。 有効活用型 取り頭し予定の建物が持つ建築的の財物に受着ないしば思い入れをもった人物がイベントを起こしている。イベント期間が長いものが多い。 イベント規間が長いものが多い。

■イベント構成の提案

事例よりイベントの構成を分析す 内容の決定を行い、地域の人や参 あった。しかし、<建築終わらせた 有する事が大事だと考えるため、 る(図2)。



郊外団地での<建築の終わらせ方>の設計

■ 設計主旨

建設から 40 年以上近く経過した大規模な建築ストックとして、 問題視あるいはチャンスとして様々な事業が動いています。UR 都市機構都市住宅技術研究所が現在行っている、団地マネジャー 事業の主幹は、「地域から学ぶ」として 40 年以上にわたり培われた歴史や思いを尊重することに重きをおいている。

この敷地では団地の記憶展覧会を「オクリビト」が整備することで、広い世代に団地の歴史を振り返り、今後を考え、共有する場をつくっていく。

■ 敷地説明

本計画では、東武せんげん台駅北西に位置する、武里団地を対象とする。

現在武里団地は高齢化が加速度的に増している、一方で家賃の安さから子育て世代や学生も住んでいます。しかし、世代間の軋轢は大きく自治協議会の不参加者が増え続け問題になっています。武里団地には「傾斜棟」と呼ばれる取り壊し予定の建物が6棟あります。そのうちの1棟をイベント会場として、オクリビトと団地住人が整備運営する事で、団地の歴史を振り返る記憶展覧会の会場を設計する。





■会場構成

図 2: 調査事例一覧 (イ)はインタビューを行えたもの、(コ)はプレスや展覧会展示よりコンセプトを読解したもの

1棟を巡るように5住戸を設計し会場構成します。また、階段室や外壁、ベランダも一部想定する。

主催者にインタビューを行いイベントの目的と成果を聞く事で<建築の終わらせ方>の設計意義

という回答を得た。このような目的をもったイベントの成果として、「イベント会場が主催者と地

域の人の、取り壊しについて話せる共有の場所になった」「建物が無くなった今も何があったか覚

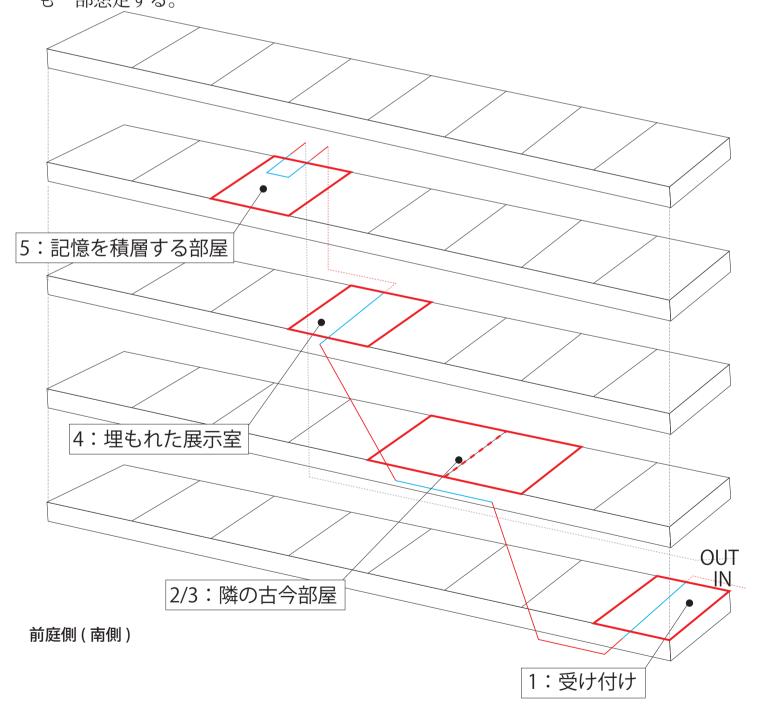
えている」等の回答を得た。このことから<建築終わらせ方>の設計意義は、建物の意味や

取り壊しについて考える機会を人々に提供し、取り壊された場所にどのような建物が建ち、町や景

観がどのように変化していくかに地域の人々が目を向ける機会をつくる事ではないかと考える。

、イベントの活動目的として、「建物が無くなる事を共有したい」「終わりを考えていきたい」

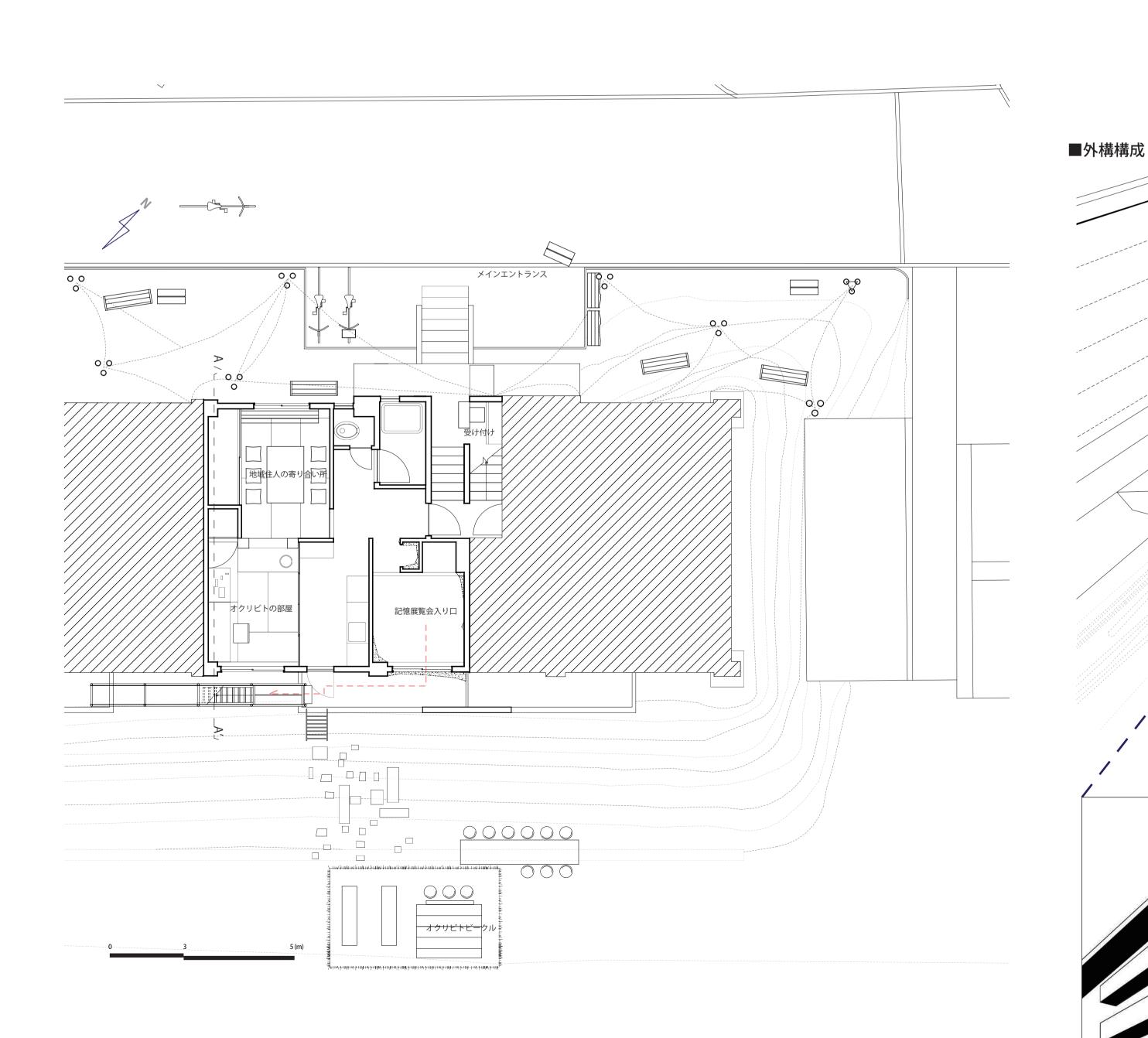
を考察した。主催者の建物や街への愛着や思いが開催のきっかけとなっているイベントでは



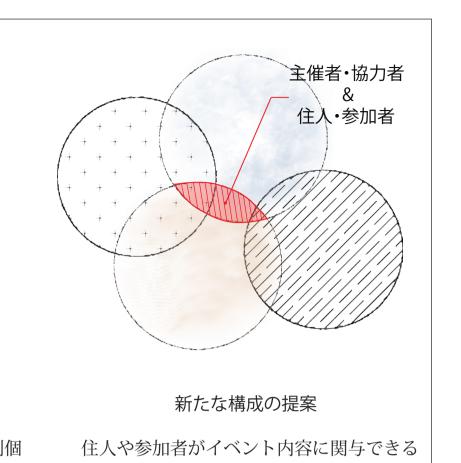
■会場全体を構成する素材

会場全体に吸音効果のある素材を詰めていきます。吸音材の奥に地域の人からお借りした、思い出の品を埋めます。奥に進むにつれて展示物が古いものになり、同時に吸音材の厚みが増し、展示品との距離がはなれ、音が聞こえにくくなります、展示品が古くなるにつれ、視覚と聴覚に靄がかかっていく状態を演出します。





ると、基本的に主催者や協力者が会場構成やイベント 加者はお客さんとしてイベントを楽しむという構成で 「>の設計において、建築や地域の意味を住民同士で共 企画運営から密接に地域と関われる構成と方法を考え



■オクリビト

より地域と密接なイベントを計画・主導し、実践す る人物として、「オクリビト」と呼ぶ活動家を想定す る人物として、「オクリヒト」と呼ぶ店動家を想定する(図 3)。彼が地域に訪れることから始まる一連の事象を、建築設計として扱う。オクリビトは、設計者としてイベント会場の空間構成を行う。またキュレーターとなり、イベントを行うまでのプロセスやシステム、イベントのプログラムや人選を検討すると共に、地域住民を巻き込んでこれらの活動を活性化させる、ファシリテーターとしての役割を果たす。



会場の設計

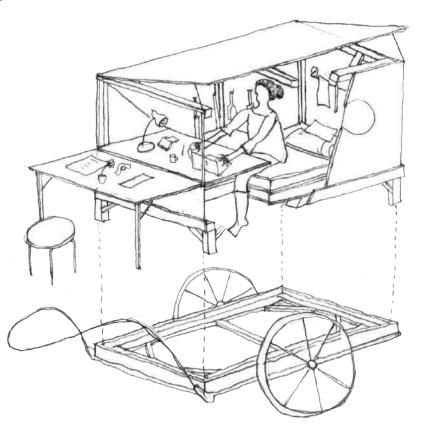
オクリビト 多目的に活動を行う専門家





■オクリビトビークル

オクリビトが扱う、活動を誘発する装置とし て、移動式のマイクロスペースを設計する。 地域や用途毎に、形や大きさを変える(図4)。 以上の前提のもと、実際に取り壊しが行われつ つある地域を2箇所選び、それぞれの地域に適 した<建築の終わらせ方>を設計する。



オクリビトビークル 活動を誘発する、移動可能なマイクロ・スペース

■実際の対象地を選定し仮想的に設計する

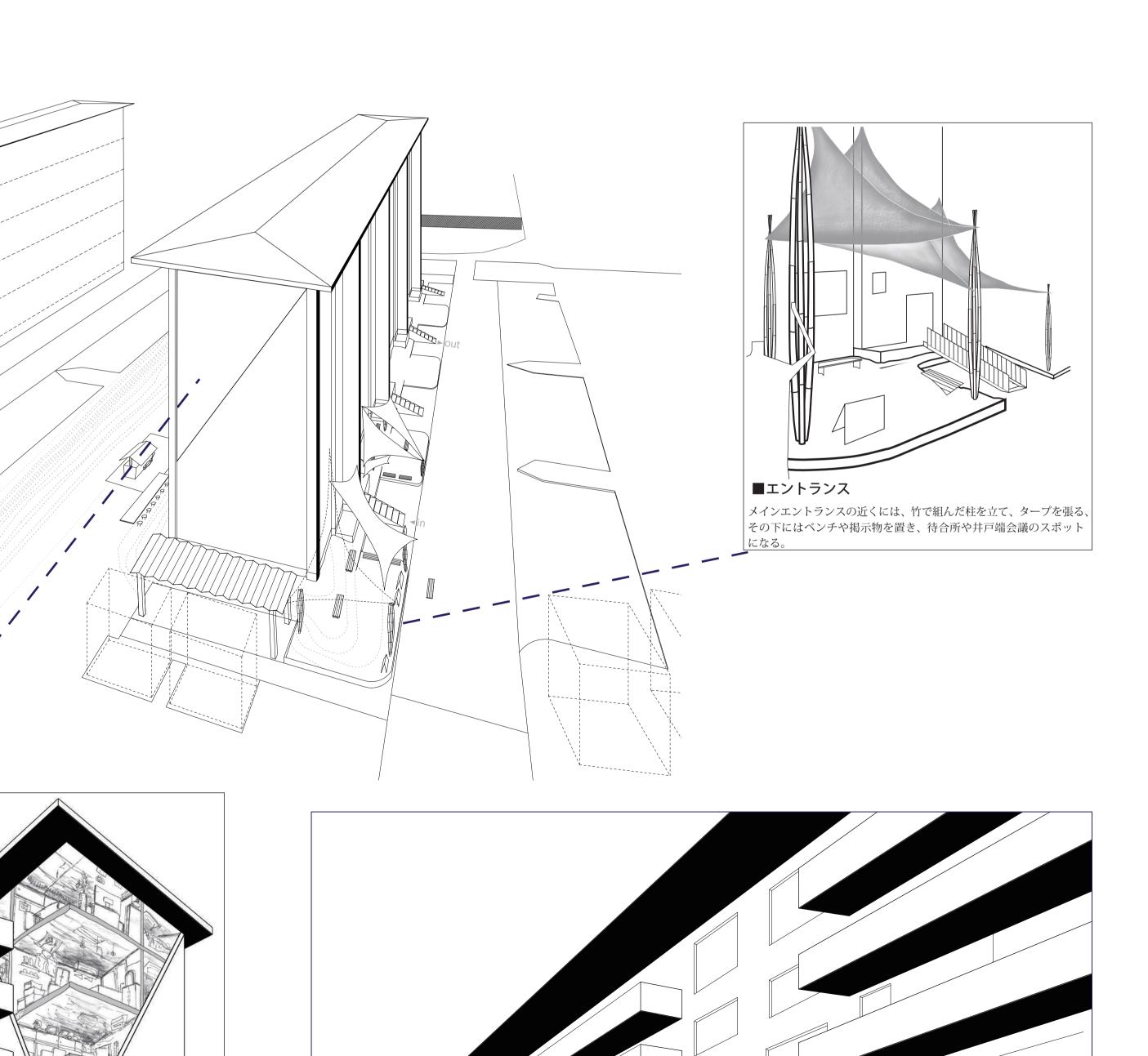
以上の前提をもとに、実際に取り壊しが行われつつある地域を 2 箇所選び、それぞれの地域に適した<建築の終わらせ方>を設計する。また、それぞれの地域活動を促進するビー クルを制作する。

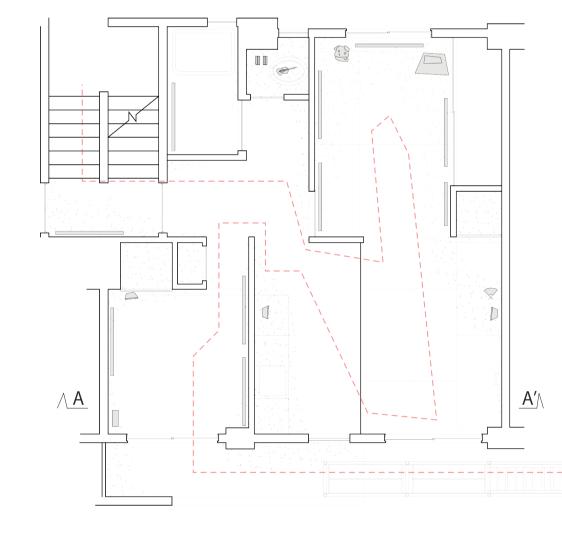


郊外にある団地 「まちの記憶展覧会」会場を設計するとともに、 失われていく地域性や、世代間の軋轢により 解体しつつあるコミュニティを再構築する きっかけとなるイベントを計画する。



転換期を迎えたシャッター商店街 まちのギャラリーと寄合所を設計することで、 これまでの街の変遷を振り返り、新旧の住人 の交流が盛んに行われる。また、未来の街の 姿について考える場所を設計する。





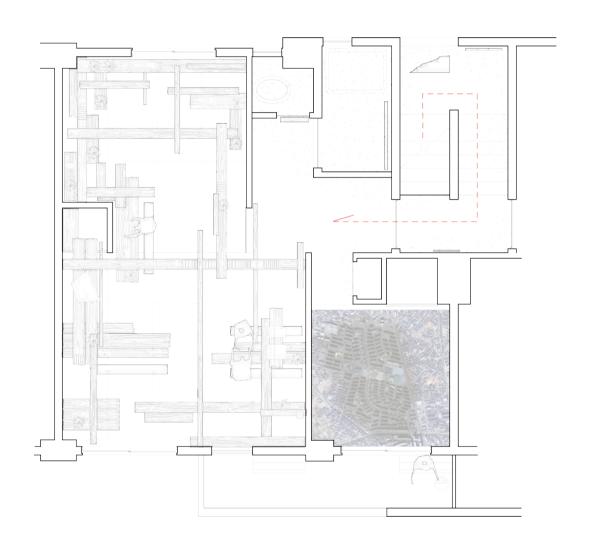
4番目の部屋 埋もれた展示室

4番目に通る住戸、室内の吸音材の量はピーク を迎え、ほとんど音が響かなくなっている。真綿 に埋もれたような感覚を予想する。吸音材の奥 には、地域の思い出の品々を展示する、みえるか 見えない微妙な距離に埋もれる。

記憶を積層する部屋

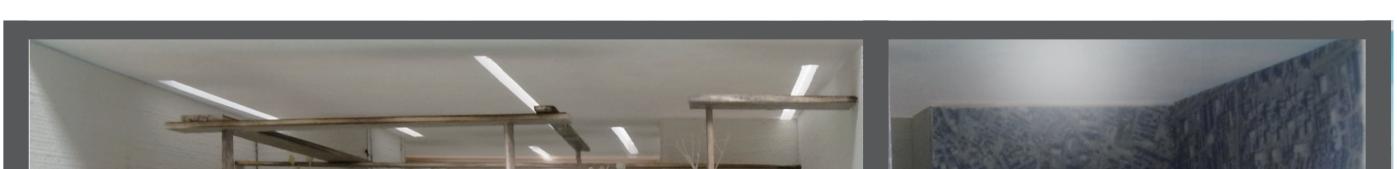
最後の住戸にあたるこの部屋には、来場者に A' 各々の展示品を持ってきてもらい、棚に飾って

> また、和室では全面に武里の地図を貼り自由に 思い出を書いてもらいます。展示期間中に記憶 を積層し、取り壊しの際に葉材を配ります。





A-A' 断面写真













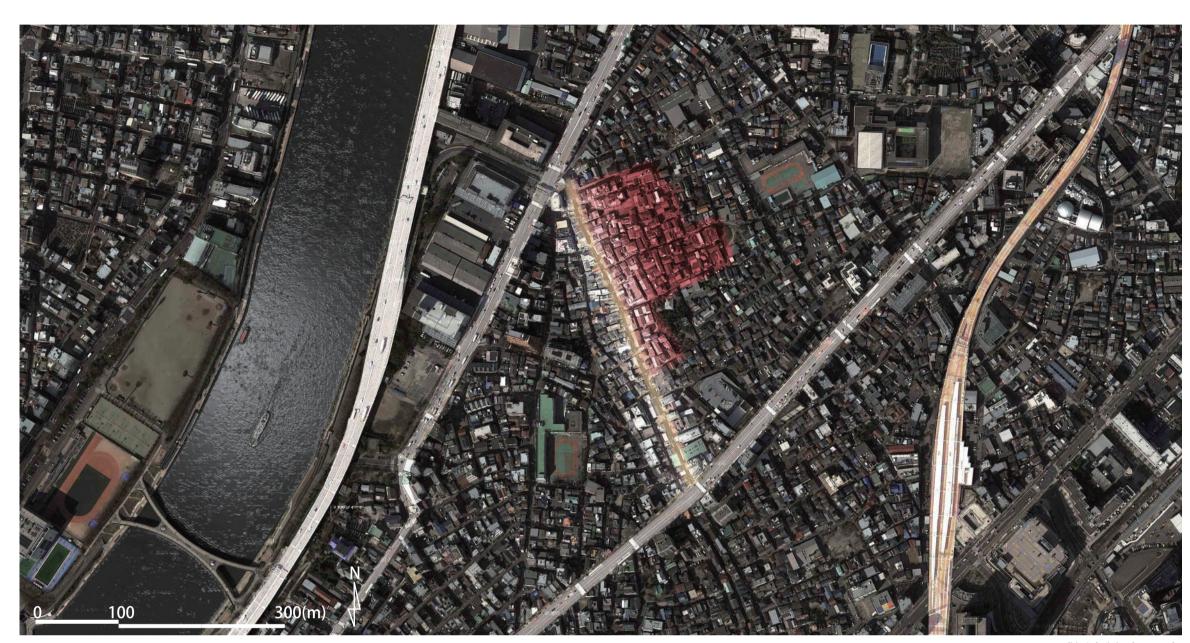


■ 1階受け付けと ビークルのお仕事

オクリビトの部屋・展示会場入り口 となっている。 オクリビトは住み込みながら会場構 成を行い、時に WS を開き地域住人と一緒に会場をつくる。

■外装計画 建物北東側の外壁 2 配 ンバスとして定期的に

転換期にある商店街での<建築の終わらせ方>の設計



敷地航空写真

■転換期を迎える街での建物を終わらせ方と始め方

日本の商店街は一部の例外をのぞき、通りのシャッター化、高齢化による跡継ぎ不足等の問題を抱えている。 それに伴い新事業やまちづくりを行う自治体も多い。シェアフラット馬場川では、商店街にシェアハウスを取り入れる等、 自治体毎に対策が打たれ始めている。こうしたことから、日本全体の商店街が転換期を迎えていると考えられる。一方で 商店街には、今も元気に店を開店している高齢者も少なくない。転換期をむかえつつも完全には入れ替わらない街の中で、 まちの記憶ギャラリーと、これまでとこれからを話し合う寄り合い所を設計する。

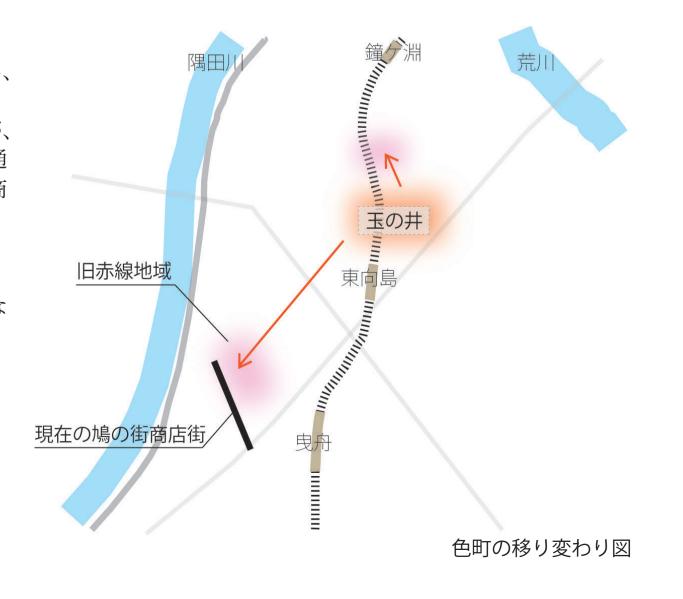
■敷地

鳩の街通り商店街は、1928年に設立(旧名寺島商栄会)し、 当時の幅員のまま現在も商店街として利用されている。 当時玉の井と呼ばれた私娼街(現在の東向島駅北東)が、 東京大空襲の被害を受け、一部の娼館が現在の鳩の街通 り商店街の北東に移って来たことから、私娼街の隣の商 店街として栄えた。

現在では、高齢化や大型スーパーの進出の影響を受け シャッター通りとなっている。

一方で新規事業者の誘致やチャレンジショップの設立な ど、新たなまちづくりが始まっている場所でもある。





会場構成



空き地を利用した野外ギャラリー

建て替えられるまでの間、空き地となっ ている土地を利用して、野外ギャラリー を展開する。

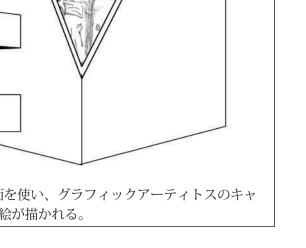
展示の什器や家具はオクリビトビーク ルを使用する。近くの店と連携してマー ケットのような事も開催できる。

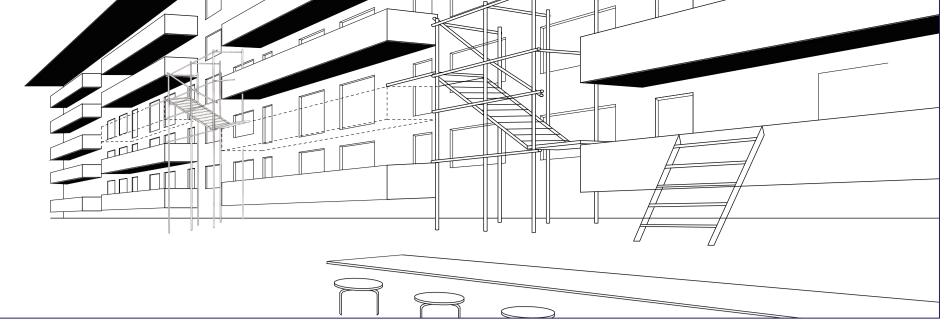
最後の展示になるこの建物は ちづくり拠点となる。これま に、この先の街をどのように を話し合う場所となる。 また、オクリビトの拠点とな

と同時に建築設計をおこなっ

大きなテーブルと小さなマ

空間は元店構えであった土間 ヤードであった和室を貫通す ルを配置、多様な人が一緒に 室内には割タイルやセトモノ れている、建物の改装時にオ の住人が一緒に施行する。





前庭からの見上げパース:足場材が1階から3階までつづく



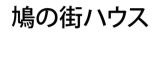






テリアル

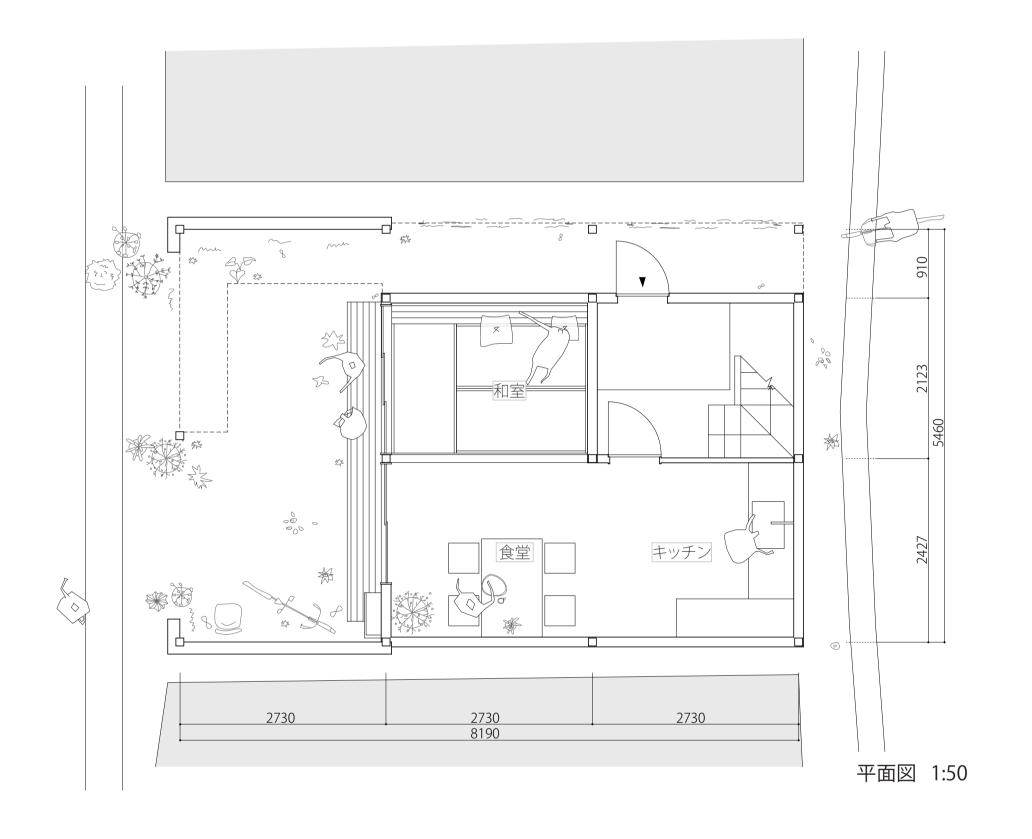
]空間と、バック るようにテーブ 座る事ができる。 が壁に埋め込ま ウリビトと地域



未来へのまちづくり拠点では、まちづくり の一環として建築設計も行う、例として新 規住人とオクリビトが考えた鳩の街ハウス を設計する。

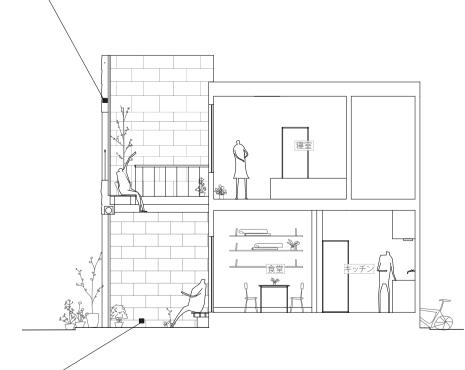
偽看板建築

鳩の街商店街の特色でもある通り沿いに並んだ 看板建築を、オマージュし、看板建築の見せ方 と、商店の作りに似せながら空間をつくる。



看板吹き抜け

セットバックした建物と看板のあいだに小さ な吹き抜けの光庭を設計、おだやかな光に包 まれた場所となる。



一土間~和室

商店街通りから地続きで土間に繋がってお り、和室からのびた縁側にたどり着く。町の 人がお話にきたり、用途を変更したりできる。

